

地質ニュース

昭和47年1月 第209号 1972

- 解 説 わが国の海外石油開発の現状…………… 福 田 理…1
- 鉱物徒然草(1)…………… 桜井 欽 ……16
- 国際会議 ‘71国際水文地質学会アジア地域会議……………小 西 泰次郎…22
- 富士山の溶岩…………… 浜野 一 彦…31
- 海外事情 南極大陸の歴史を探る④～氷のない中生代～……………木 崎 甲子郎…44
- 資 料 地質調査所所蔵の外国の地質図①～アフリカその1～…資 料 室…54

編 集 地質調査所

富士山の宝永火口

表紙の写真

富士山の噴火は 洪積世にはいつて 現在の山体が形成されてからも 何度もくりかえされており 有史以後でも十数回の噴火が記録されている。しかしこの宝永火口ができた宝永4年(1707)の噴火以後にはほとんど噴火らしい噴火はなく 休眠期にはいつて260年余をへている。このときの噴火では めずらしく石英安山岩質溶岩をともなった噴火で それまでの主として玄武岩質溶岩による噴火とは 趣をことにしている。このときの噴火は その1カ月前に遠州灘付近を震源とする大地震のあとで起きたもので 地震との間に何らかの関係がありそうにみえる。この大地震は規模が大きく 日本全国に つなみの災害がおきたと記録されている。一方この噴火による災害も大きく 甲府盆地にまで小豆粒大の溶岩が降ったといわれている。

この写真は 静岡県側から撮影したもので 山梨県よりみた寄生火山雲の写真を 田中収君(東大大学院)と一緒に撮影したが 適当なものがなく これを選んだ。

(文 浜野一彦 写真 正井義郎)

発 行 株式会社 実業公報社